巻頭言

商用車の信頼性を支える技術開発の取り組み

開発部門 執行役員　　西　和博
Kazuhiro Nishi

商用車を取り巻く環境は、カーボンニュートラルへの対応、安全規制の高度化、物流構造の変化、更には人手不足の深刻化など、大きな転換期を迎えています。こうした変化の中で、商用車に求められるものは、単なる先進性ではなく、「現場で確実に役に立つこと」、そして「長く安心して使えること」であると私たちは考えています。

いすゞはこれまでも一貫して、現場起点・実用本位のものづくりを大切にしてきました。どれほど高度な技術であっても、お客様の現場で使いこなせなければ、価値にはなりません。過酷な使用条件下においても確実に機能し、安定して稼働し続けること。まさにこの「信頼性」こそが、商用車における最も本質的な価値であり、いすゞの技術開発の原点です。

近年注目されるカーボンニュートラルへの対応においても、この姿勢は変わりません。電動化の推進は不可欠である一方で、使用環境、稼働形態、インフラ条件は、お客様ごとに大きく異なります。いすゞは、BEV (バッテリー式電気自動車：Battery Electric Vehicle)やFCV (燃料電池自動車：Fuel Cell Vehicle) といった新技術に取り組むと同時に、ディーゼルエンジンの更なる高効率化や燃料の多様化への対応にも地道に取り組み、現場で実際に成立する解を提示し続けていきます。重要なのは技術の先進性そのものではなく、「お客様の業務を止めないこと」、そして「経済合理性を伴って成立すること」です。

また、先進安全技術や自動運転技術、デジタルサービスの分野においても、いすゞは同じ考え方に立っています。事故低減や運行負荷の軽減といった確かなベネフィットを実現しつつ、操作性や保守性も含めて現場に定着する技術でなければなりません。加えて、稼働サポートやエネルギーマネジメントといった領域では、車両単体にとどまらず、お客様の事業全体を支える仕組みとして進化させていく必要があります。「止まらない」「無理なく使える」こうしたこの当たり前を支えるための技術こそが、これからの競争力になると考えています。

Copyright© 2026 ISUZU MOTORS LIMITED.
All Rights Reserved. 無断転載・複製・配布禁止

本号では、このような考え方のもとで積み上げてきた技術開発の到達点を紹介しています。商品開発においては、安全性・環境性能・信頼性を高い次元で両立させるとともに、先進技術を現場で使える形にまで落とし込んでいます。また、基盤技術や生産技術、デジタル技術の領域においても、地道な検証と改善を重ね、確かな裏付けを持った進化を遂げています。これらは決して華やかな成果ばかりではありませんが、いずれも現場での価値創出に直結する、いすゞらしい技術の積み重ねです。

技術は今後益々高度化していきます。しかし私たちは常に、「それは現場で本当に役に立つのか」「お客様の手になじむのか」という問いを常に持ち続けます。全ての技術は、お客様の事業を支え、安心して使い続けていただくためにある――この考えをぶらすことなく、確かな技術を愚直に積み上げていきます。

最後に、本号に掲載された成果は、日々現場に向き合い、試行錯誤を重ねてきた技術者・関係者の粘り強い取り組みによるものです。見えにくい部分も含め、品質と信頼を支える努力の積み重ねに、心より敬意を表します。

いすゞはこれからも、「運ぶ」を支える責任を胸に、現場に根ざした確かな技術で、お客様と社会に貢献してまいります。